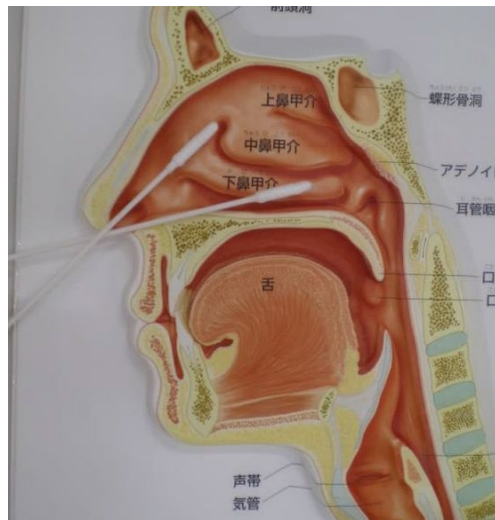


鼻処置について



Hatano Clinic

はたのクリニック
いろいろな病気の解説シリーズ
2026年7月作成 第1版

鼻処置について

1. はじめに？
2. 鼻処置では何を使っているの？
3. 鼻処置では何をしているの？
4. 鼻処置は必要なの？
5. 鼻処置時の注意点は？
6. 症例呈示
7. 上咽頭擦過法(EAT)

1. はじめに

皆さんが耳鼻科を受診された時に
鼻の中を見た後に、**スプレー**で**薬を噴霧**したり**綿棒で薬を塗布**したり、
鼻汁を**吸引**するなどの処置を受けたことがあると思います

その際に、初めての場合だと何をするのかわからなくて
大人でも少し心配になりますし、小さな子供さんの場合には
びっくりしてしまいます

これは「**何のために**」「**何を使って**」「**何をしている**」のでしょうか？

今回はこの「**鼻処置**」について説明します

(「鼻処置」を行う際には、処置が必要と思われる場合に限っており、感染状況を考慮して
必要に応じてスプレーは使用せず、マスク、眼鏡、フェイスガードなどを感染防具を装着して
感染対策を施行しています)

2. 鼻処置では何を使っているの ① ?

鼻の穴(前鼻孔)は鼻翼軟骨に覆われて少し下方を向いているため
正面からでは中が見えにくくなっています

このため、「鼻鏡」という道具を使って、この鼻翼軟骨を少し持ち上げて
鼻孔を拡げて鼻の中を見やすくするようにします

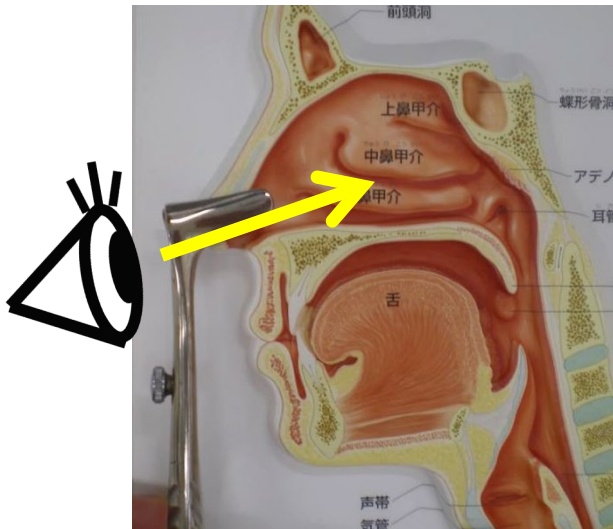
小さな子供さんの場合には、耳の中を見る時に使う円錐状のもの(耳鏡)を
用いる場合もあります

まず鼻の入り口から観察します

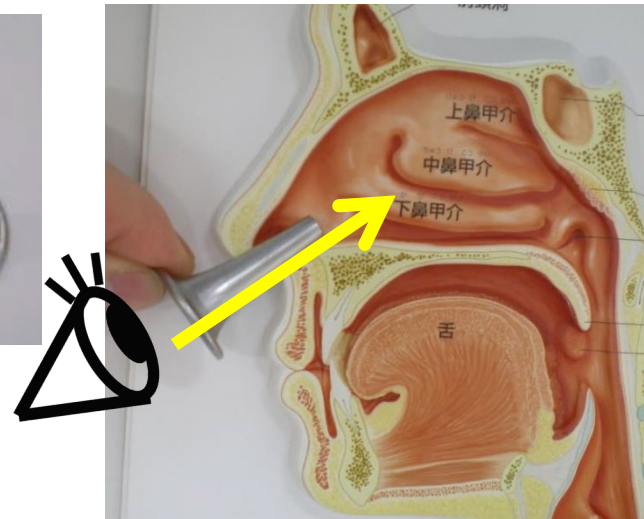
鼻の中は上方に広がり奥に深くなっているため、正面ばかりでなく、
下からも覗き上げるようにして広く全体を観察します



鼻鏡



耳鏡



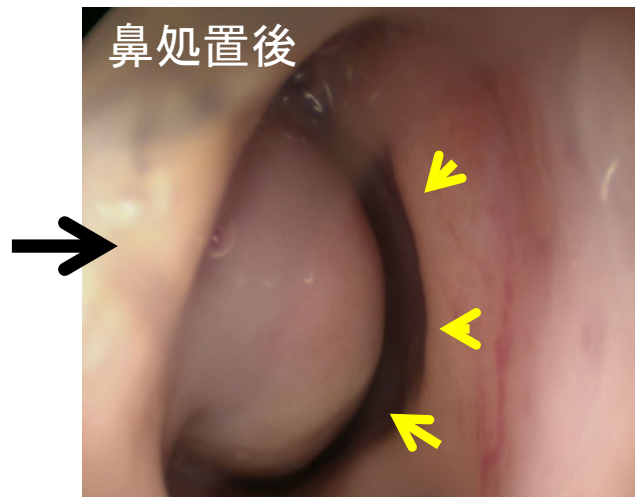
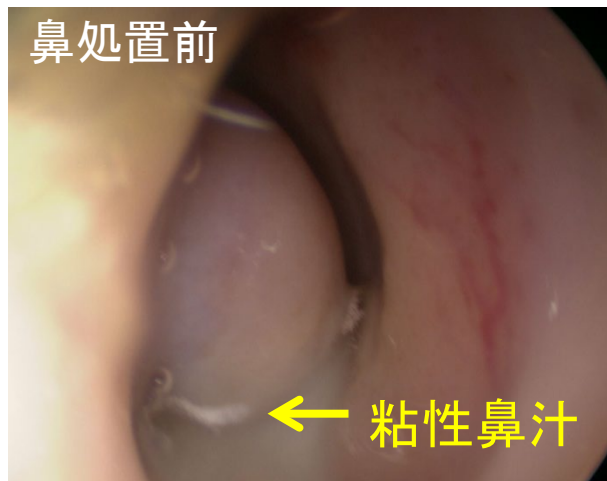
2. 鼻処置では何を使っているの ② ？

施設によって異なりますが、綿棒やスプレーを用いて薬液を噴霧、塗布します

鼻の中は敏感であり、いきなり触ると痛みを感じてしまうため、

1. 血管収縮薬を用いて鼻粘膜を収縮させて鼻の通りをよくして鼻閉を改善するとともに鼻腔内の隙間を広くさせて処置時に器具が触れにくいようにする
2. 局所麻酔薬を用いて、鼻粘膜表面を麻酔して少しでも処置時の痛みを軽くします

使用する薬のために、のどが少し苦くてしびれるような感じがしたりしますが、しばらくすると消失するので、ちょっと我慢してください



鼻処置前は
鼻粘膜が腫脹し鼻汁の
ために鼻内に隙間が少ない
鼻処置後には、
鼻粘膜が収縮し鼻汁を
吸引する事で隙間が
できるため
鼻粘膜をより優しく触る
処置ができるようになる

3. 鼻処置では何をしているの ① ？

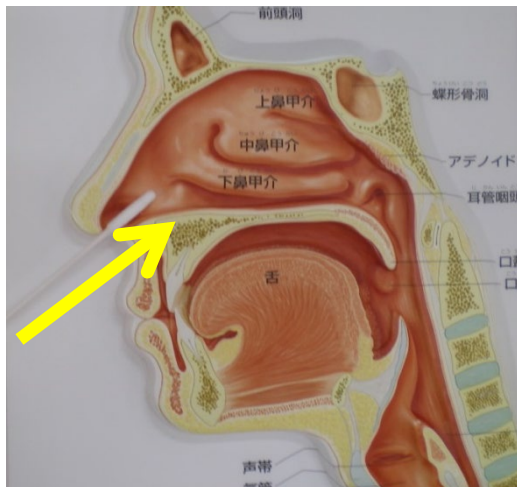
また鼻の粘膜の腫れが強く、鼻詰まりが強い場合には、薬が奥まで十分届かない場合があります

この時にはいきなり奥まで触るのではなく、**まず鼻の前方**に薬を用いて処置をして少し前方部位を広くして触りやすくし痛みを軽減した後に、**さらにもう一度**同じような処置をして**奥の粘膜**に対しても同様の処置を追加することで、痛み止めと鼻の粘膜を収縮させる処置を追加しますつまり、

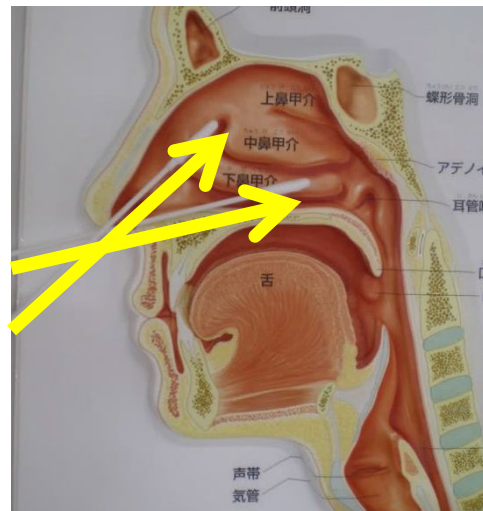
① **少しでも痛くないように、**

② **また鼻の通りをよくすることでスッキリするとともに隙間を作ることで**

次に行う吸引処置時に器具が**当たりにくい**ようにするため、痛み止め(**局所麻酔薬**)と 鼻の通りをよくする薬(**血管収縮薬**)を使っています



鼻の入口
にまず
処置する



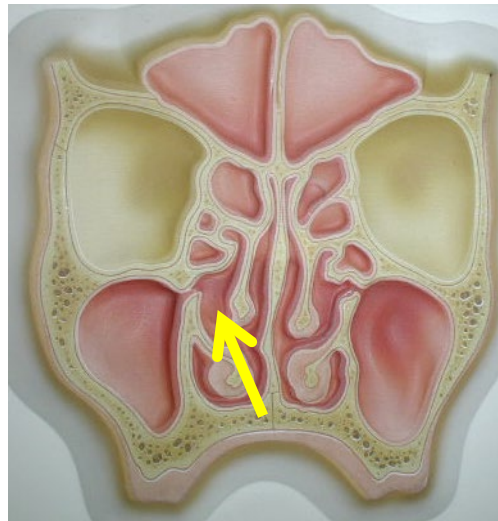
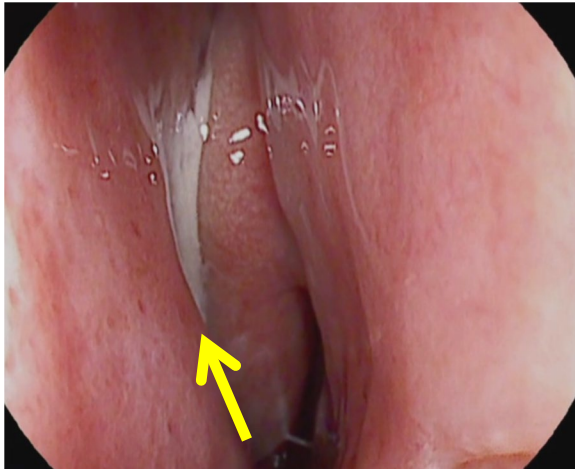
入口が痛くない
ようになり少し
隙間ができてきたら
さらに奥に同じ処置
を繰り返す

3. 鼻処置では何をしているの ②？

鼻の調子が悪くて耳鼻科を受診される方では、単に鼻の粘膜が腫れて鼻が詰まってしまう場合のほかに、炎症を起こしてねばねばの鼻汁が奥に絡んでいる場合(副鼻腔炎など)も多くみられます

またこの鼻汁が奥にたまることで、鼻の通りが悪いだけでなく、**鼻腔と副鼻腔の交通路**(換気と排出の機能)を塞いでしまうため、炎症がさらに悪化するという悪循環を起こします

このため、可能であれば、鼻の入り口だけではなく、**自然口周囲**の粘膜も薬を使い隙間を広くして鼻汁を吸引除去すると鼻閉症状も改善し、治療効果も増します



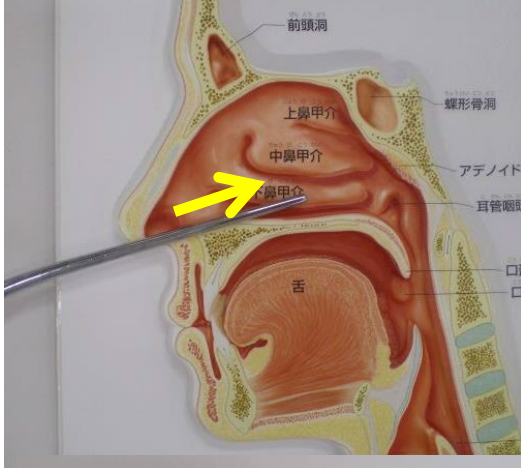
自然口から膿性鼻汁が排出され、さらにこのため自然口周囲が狭くなっています

3. 鼻処置では何をしているの ③？

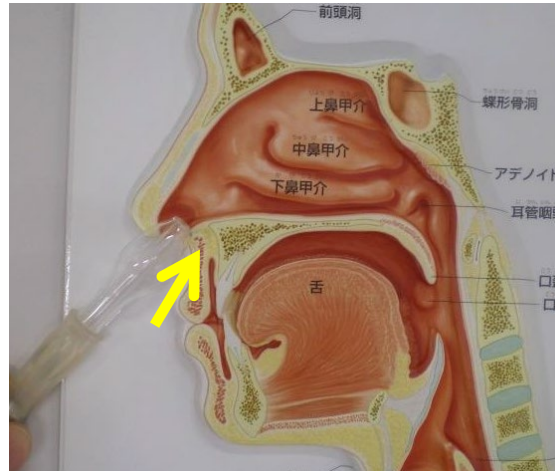
大人では、薬を使用したのちに**金属製の吸引の道具（吸引嘴管）**を使用します

子供さんでは鼻の中は狭くて敏感なので**オリーブ管**といって先が丸くなったシリコンやプラスチック製の道具を用いて鼻汁を吸引します

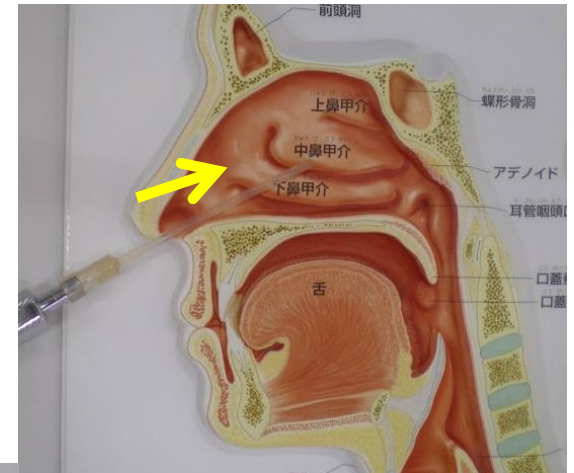
小さな子供さんの場合には動いてしまうため**オリーブ管**とともに**シリコン製のチューブ状**の道具を用いて奥にたまった鼻汁を吸引する場合があります



吸引嘴管



吸引オリーブ管



シリコン製吸引チューブ

4. 鼻処置は必要なの？

この処置をしても、泣いてしまったり、また鼻水が出てしまってもすぐにまた詰まってしまうため「鼻処置」に関して**否定的な意見もあります**

たしかに怖がって鼻の中を見せてくれず動いたり、泣いてしまうこともあります
その場合には無理矢理行うことはなく、**可能な範囲**での観察と処置にとどめます

一方、うまく鼻処置を行うことができると、**鼻閉が改善**され、のどに落ちている鼻汁が少なくなり、痰が絡む咳が良くなったり、鼻処置の後に行う鼻のネブライザー治療の効果が上がったり、**小さな赤ちゃん**では**鼻呼吸改善**になるといった効果が期待できます

小さな赤ちゃんは主に**鼻で呼吸**をしており、口呼吸のみではうまく呼吸できないため、風邪をひいて鼻が詰まった赤ちゃんでは、哺乳時や夜間寝ているときに息苦しくなってしまうことが有ります

自分で鼻をかむことができない小さい子供さん(特に2歳以下)に対しては血管収縮作用の**点鼻薬**を使用しにくい**ため**、小さな子供さんに対しては**必要に応じて**鼻処置を行うようにしています

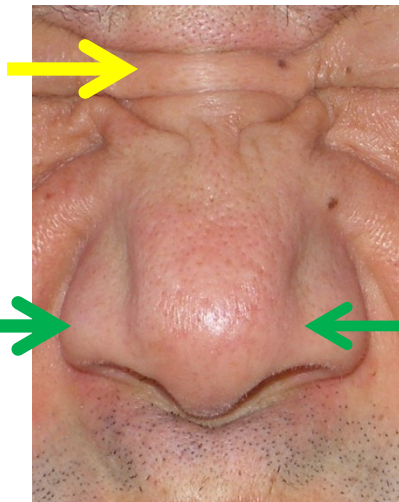
5. 鼻処置時の注意点は？

鼻処置を行う場合に、大人でも目を強く閉じたり、鼻の下に力を入れて伸ばしたり、びっくりして急に動いたりしてしまう場合もあります

そうすると、前鼻孔をうまく広げにくくなり、綿棒が横の部位に当たってしまったり薬を奥に塗布できないためにかえって痛くなってしまいます

処置時には、できるだけ力を入れないようにしていただけると助かります

慢性副鼻腔炎の術後や急性副鼻腔炎などに対して、単純な「鼻処置」ではなく副鼻腔との交通路を薬を用いて広げるまでした場合には、「副鼻腔自然口開大処置」となります



眼をギュッと閉じる

鼻の下に力を入れすぎる



鼻処置時につい力が入ってしまい眼をギュッと閉じたり、鼻の下に力が入りすぎると小鼻（鼻翼軟骨）にも力が入ってしまいます
そうすると鼻の中が見えにくくなるため、かえって不必要な部位を触り痛くなることがあります
できるだけ力を入れないでください

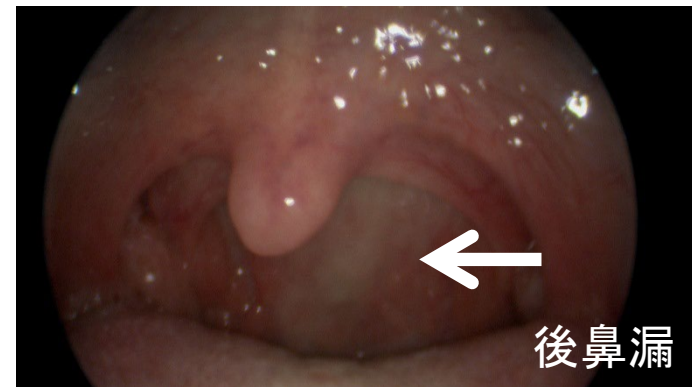
6. 症例呈示: 鼻処置が有用であった5歳女児

2か月前に風邪をひき近くの医院でいろいろな薬の治療をしていたが、なかなか咳が止まらないとのことで受診した5歳女児です

口の中を見ると、口蓋垂(のどちんこ)の後ろで、鼻の方からねばねばした粘液(後鼻漏)がのどに絡んでいるのが認められ、鼻の中を見ると鼻の粘膜は腫れて詰まっており鼻汁が溜まり、ほとんど鼻から呼吸ができない状態でした

自分でティッシュを用いて鼻をかんでもらい、鼻の中にできた少しの隙間に薬(局所麻酔薬と血管収縮薬)をしみこませた綿棒を軽く当て、鼻の前方に軽く痛み止めを塗布し、少し鼻の通りをよくします

これでさらに鼻がかみやすくなるため、同じく鼻をティッシュでかんでもらいます
同じ様に痛み止めが効いた部位からさらに奥にも処置を追加していき鼻の突き当り付近(上咽頭)まで同様の処置を行います



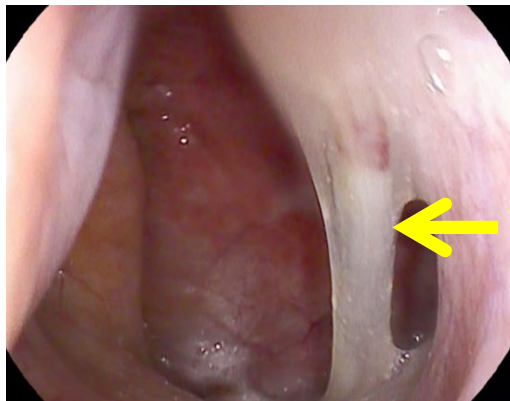
6. 症例呈示 ②

さらにできるだけ鼻の粘膜に強く触れないようにして可能な範囲で鼻汁の吸引処置を行い、鼻閉が改善し鼻呼吸が楽になりました

その後は、徐々に鼻呼吸が改善していき、夜間の咳も軽快してきました
鼻閉がよくなって鼻で息ができることを自覚できたためか、この子供さんは自分から「また病院に行く」と言ってこられました

この女児は、感冒後に副鼻腔炎を起こし、鼻粘膜の腫れと粘膿性鼻汁のために鼻が詰まってしまい、さらに鼻汁がのどに絡んで(後鼻漏)、痰のようになることで頑固な咳が続いたものでした

これに対して、マクロライド系抗菌薬、去痰剤の内服ともに、鼻の局所治療としてこのような処置を行うことで、少し時間はかかりましたが軽快しています

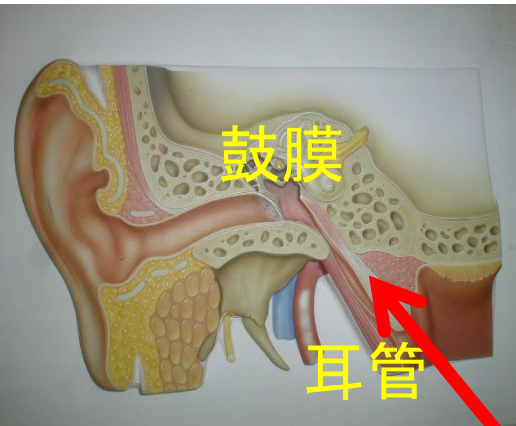


鼻腔後方の膿性鼻汁

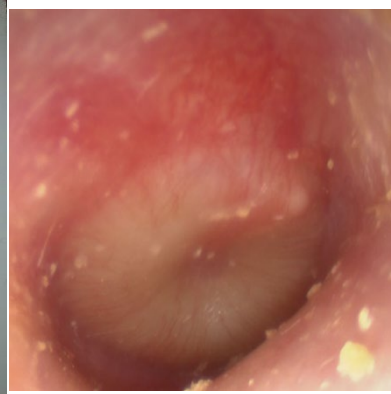
上咽頭に流れ込む膿性鼻汁

この3枚は同様の症状を認める他の患者さんのものです

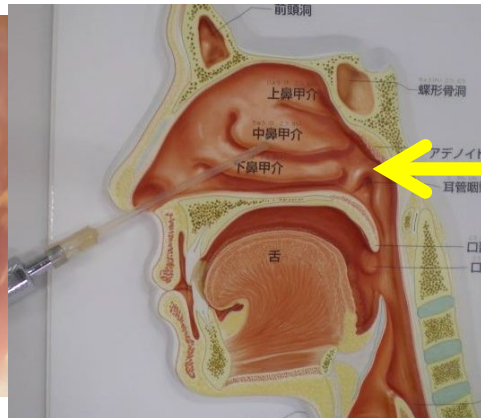
小児急性中耳炎の治療における鼻処置



耳管を介した感染



鼓膜が赤く腫れて、内側に黄色の膿が貯まっている



鼻腔後方から上咽頭、
耳管開口部へ流れる鼻汁



耳と鼻の奥は「**耳管**」という管でつながっており、風邪などで、のどが腫れたり、鼻水が多くなったりした時に、この**耳管を介して**細菌などの感染をおこし、耳の奥の「中耳」に炎症がおこることによって「**中耳炎**」になります

鼻副鼻腔に炎症があり、後鼻孔から上咽頭にかけて膿性鼻汁が絡むような状態では、**耳管の入り口近く**に鼻汁が絡むこととなるため、耳管を介した中耳の感染を起こしやすく、耳管周囲の炎症が続いていると**中耳炎の治り**もよくありません

このため、「**小児急性中耳炎 診療ガイドライン**」には、薬物療法などに加えて、鼻所見がある場合には、「**鼻処置**」を併用することが記載されています

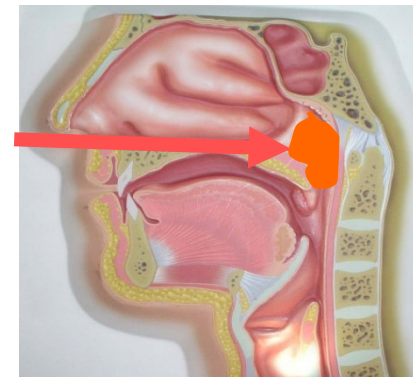
7. 上咽頭擦過法 (Epipharyngeal Abrasive Therapy EAT)

以前から上咽頭に薬液(塩化亜鉛)を塗布する治療法は報告されてきましたが、治療効果が一定しないためその後施工されなくなっていたところ、**新型コロナウイルス感染症の後遺症治療**に対して有効な症例が見られたため、近年**上咽頭擦過法(EAT)**が見直されてきました

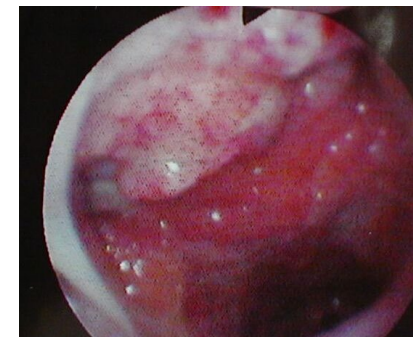
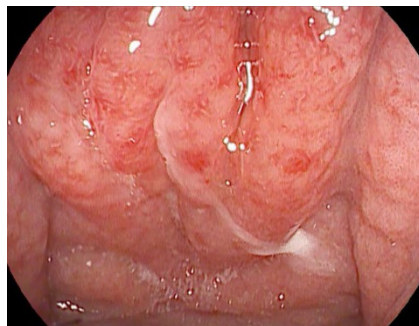
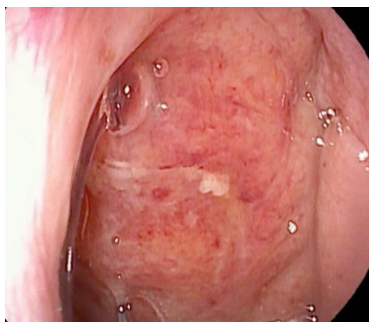
コロナ感染症後遺症を含めて有効例が報告され、なぜ効果があるのか(抗炎症効果や血流改善などか)、どの様な場合に、どの程度効果があるのか等に対して**詳しい検討が加えられています**

当クリニックでは、内視鏡検査を行ったうえで

1. 後鼻漏を伴うなどして上咽頭に**炎症所見が明らかな場合**
 2. **花粉症**時に「鼻とのどの奥の間がイガイガする」症状がある場合
 3. **コロナ感染症後遺症**で他治療が無効な場合
- などに上咽頭擦過法を行っています



ただし、時に**上咽頭の悪性腫瘍**が見られる場合もあり、注意深い観察が必要です



粘性後鼻漏が付着し発赤腫脹した上咽頭粘膜

要注意: 上咽頭癌